

日本大学東北高等学校同窓会会報

桜 OUDA 采

 NIHON UNIV. TOHOKU DOUSOU
日本大学 SINCE 1955

第12号



永徳橋より郡山駅方面を望む
写真提供：国分スタジオ(国分健吉氏昭和43年撮影)

発行日/2014年8月1日

発行/日本大学東北高等学校同窓会
郡山市田村町徳定字中河原1

編集/日本大学東北高等学校同窓会事務局
<http://www.nichidai-tohoku-dousoukai.com>



第2回学校祭開催/昭和43年
昭和43年10月11日と12日の2日間、
体育祭と文化祭を兼ねた学校祭が
開催された。



安積永盛駅構内/昭和42年頃



南門登校風景/昭和43年



昭和59年夏の上空写真

題号秘話

桜の枝がしだれるという「桜采(おうだ)」の命名とデザイン文字は、創刊当時の廣長威彦氏によるものです。そこには、「幹としての本部と枝としての支部がひとつとなって、互いに成長し続けよう。」との想いが込められていました…。(桜采8号より)

同窓の絆

日本大学東北高等学校 同窓会会長
第15期卒 柳 沼 正人



日本大学東北高等学校同窓会は、1955年(昭和30年)に母校の発展に寄与することを第一の目的にして設立され、来年2015年(平成27年)で60周年を迎えることになりました。歴代の会長様、役員の方々の御努力で築き上げられ、現在、役員、会員の方々に支えられ、私も会長として10年を迎えようとしております。そして「桜朶(OUDA)」も12号の発刊となり、母校とOB・OGの方々の元気の絆として多くの皆様から喜びの音が届くようになってまいりました。

今年の3月1日に挙行された第61回卒業式では「三世代賞」5名が受賞され、平成25年度までに19名の受賞となっておりますことは喜びに堪えません。

このように多くの方々に愛され、福島県に無くてはならない日本大学東北高等学校を、「高校の雄ここにあり!」と声高らかに宣言させて頂き、ご挨拶といたします。

当時はふりかえって

あの頃・・・

普通科 昭和54年卒 26期生
第28代生徒会会長

酒井 勝弘



哲哉(彼とは小学校から中学、高校、そして大学までずっと一緒に今でも大切な友達です。なんと母校の日大東北高校で得意の英語教師をしています)からメールでこの原稿の話があり、続いて当時の同じく母校で国語教師をしている高橋敏行君から(彼とは高校1年の同級生でした。ブラスバンドで活躍して、応援団長の哲哉とともに野球を一生懸命応援していましたね。)正式に依頼されたので、遠い記憶を思い返してみることにしました。

私が在学していたときは、ちょうど校名が変更の頃でした。それまでの日本大学東北工業高校(日工)から日本大学東北高校(日高)へと校名だけでなく、制服も黒い詰め襟に黒ボタン(ちょっと青学風?)。校章も現在のものへ格好良く、イメージが大きく変わったことが強く印象に残っています。

それというのも入学した当時(私が卒業するときも余り変わってはいませんが…)は、パンチパーマの先輩たちがポマードでバッチリ髪を決めて、制服の内側は「暴れ虎」か「昇り籠」の刺繍、ズボンにはボンタン、そして45度の黒いサングラスというおしゃれなファッションで、さながら映画ビーバップハイスクール(かなり古い?)のロケからそのまま出てきたような感じでだったからかもしれません。

当時の学校行事から特に印象に残っているのは、体育祭

の「棒倒し」(今は無いでしょうか?)です。工業科学科のお友達が輝くような白衣を着て登場。そして何科だったか忘れてましたがこれまた強そうな相手と対戦することになりました。ルールのには、相手側のチームが支えている長い棒の先を地面に付けた方が勝ちというシンプルな競技ですが、その頃の日工生は誰もそんな正式ルールなど頭にありません。相手側の棒を持っているお友達をいかに「合法的に倒す」ということだけでした。ですから、競技後にあの輝く白衣が真紅に染まる?なんてことは特に不思議なことではありませんでした。

また、学校自慢の施設としてその頃にも食堂がありました。(当時食堂がある高校は余り無かった)特にみそラーメンが美味しく、いつも行列が出来るので午前中の授業が終わってダッシュで駆けつけるのですが、そこには、僕達新入生(カモ?)を待っているかのように落ち着き払った先輩達が居るのです。(その時間に居るのは不思議でしたが?)そして先輩達の胸ポケットにはいつも割り箸が刺さっていました。これが今流行のファッション?まさかね…。と胸騒ぎを感じながらお目当てのみそラーメンを選び、席に座ると正面に例の先輩(もちろん私はその方を存じ上げません)が座ってきました。「やあ元気?おいしそうだね。ちょっといいかな」と胸ポケットからあの割り箸を取り出し、歯に挟んでパチッと割り、そのまま私の大事なラーメンをおいしそうに半分ほど食べ、「ごちそうさま」と言ってどんぶりを返し、そして次のターゲットに向かって行きました。私は、何が起こったのか理解するのに少々時間がかかりました。

それから2年後、私の胸ポケットには割り箸が刺さっていました。(もちろん、先輩としての身だしなみ、ファッションですよ。)

さて、こんなことばかり書いてると、今の後輩達がびっくりしてしまいますね。多少脚色はありますが、ほぼ事実です。

でも、高校生らしい思い出だってあります。当時担任だった郡司先生や現在の教頭先生の野口先生の授業はとても面白かったですね。私は現在教員をしていますが、理科の免許を取ったのも化学や物理の面白さを分かりやすく教えていただいたからだと思います。今更ながらに感謝申し上げます。

また、冒頭で紹介した哲哉とは、高校三年生のとき一緒に塾通いをしていて、始まる1時間前に「マスター、いつもの」でモカコーヒーが運ばれるほど行きつけのカフェ(本当は当時、出入り禁止だったのですが)で将来のこととか恋愛のこととか?熱く青春を語り合ったものでした。

今思うと、あの時間がとても大切な宝物です。時代は変わりましたが、今の日高生にも「自分をさらけ出して熱く語り合うことのできる友達」とすてきな高校時代を過ごしてほしいと思います。と、最後だけちょっと真面目に…。



新食堂が完成(昭和45年8月1日)



昭和60年頃の食堂の内部

高校時代の思い出

普通科 昭和44年卒 16期生
第18代生徒会会長
根本 昭吉



私が日本大学東北工業高校に入学したのは、昭和41年4月の桜の満開の時期でした。本宮から汽車に乗って郡山に向かうだけでも義務教育から解放され、大人になったような不思議な気持ちの高ぶりを感じたことを思い出します。

入学式会場は(今では記憶が定かではないのですが)木造の大学の講堂か実習室のがらんとした大きな建物であったように思います。厳粛な中で挙行された入学式でしたが、何と突然殴り合いの喧嘩が勃発しました。今では考えられないことですが、前途多難な高校3年間で暗示するような、強烈な出来事として感じていたことを記憶しています。

さて、永田総長の訓示は、「日本大学の建学の精神は日本精神の発揚にある」とし、また学校の教育方針は、「日本精神に基づき、心身ともに健やかな人材を育成することであり、加えて精神尊重・知・徳・体、調和の教育・新旧調和の教育を施す」という内容でした。また、広川校長の告示は、「自分の足で歩むことの大切さ、友との協力の大切さ、そして、体を丈夫にすることの大切さ」について触れ、「社会生活の基本と生きてゆくことの大切さ」についてお話されました。

やがて入学間もない私にも友人が出来ました。人生について互いに語り合いながら、安積永盛駅から永徳橋を渡り、アカシヤ林を通して校門まで通ったあの頃が懐かしいです。特にアカシヤ林の中に咲く真っ白なブドウ状の房の、あのなんとも言えない良い香りが不思議と今でも思い出されます。

2年生になると、同級生たちは部活動や委員会活動にそれぞれの立場で活躍し、充実した高校生活を楽しんでいました。第17回体育祭と兼ねて開催された第1回の文化祭は一般公開ではありませんでしたが、各クラブの普段の実力が発揮され、来場した人たちに好印象の発表内容となりました。一方、部活動に参加していなかったその頃の私は、学校と家との往復だけという何か物足りなさを感じていました。それが生徒会役員への立候補の契機となり、私は生徒会会長候補として出馬しました。全校生徒の前で、自らの公約を主張する初めての行為は、当然緊張を強いられるものでしたが、同時に公約の実現という責任の重さを痛烈に感じたものです。当時は、「長髪」と「ズボンの裾のシングル化」が生徒の切実な要望としてあり、すでに県立高校においては実現しているものでした。学校としては、長髪を容認することは大人との見分けがつかず、生徒指導上支障ありとの理由から禁止されていたのです。そんなことから5月の生徒会総会では多くの質問が出され、議長交代的一幕もあり、例年になく活発な議論となる総会でしたが、「生徒会費値上げ議案」が否決されることで、クラブ活動の運営に影を落とすこともありました。

そのような中で忘れられない出来事がありました。先頃2020年の東京オリンピックに向けて国立競技場リニューアルされると話題になりましたが、私が生徒会長を務めていた時、第8回日本大学祭の一つである日大体育祭が国立競技場で開催されました。本校から参加した陸上部の応援に生徒会代表数名で駆け付けたことは、忘れられない良い思い出として残っています。また、その前年に引き続き行われた、本校第2回の文化祭も体育祭と併せた学校祭として実施されました。2回目の文化祭とあって内容も充実し、さらに翌年からは工業科の協力も得られるとの見通しが立ち、翌第3回の開催からは、毎年一般公開するという方針を定めることが出来たのです。このことは生徒会役員として何ものにも代えがたい喜びだったのを今でもはっきりと覚えています。

最後に学園の民主化に端を発した日大紛争について少し触れたいと思います。1968年から1969年にかけて発生し、東大をはじめ全国の大学においても自然発生的に広がりを見せた大学紛争は、全共闘運動として学生と国家権力との闘いという形になり、各大学内で問題解決するというような生易しい闘争ではありませんでした。その象徴が「東大安田講堂事件」でした。日大紛争は日大工学部にも波及し、本校でも紛争への関心はこのとき急激に高まることとなりました。しかし、幸いなことに大学紛争が直接的に高校へ影響を与えるまでには至りませんでした。

3年生として進学を目指す私にとっては、大学紛争期間は不安と暗中模索の時を過ごすこととなりましたが、翌4月にはほとんどの大学において落ち着きを取り戻しつつありました。

ところで、生徒会総会で論点となった「長髪問題」ですが、学校側が譲歩し、3年生に限り12月から試験的に許可されることになりました。卒業生が速やかに職場や大学に馴染めるようにとの配慮からだったと記憶しています。

以上、私にとっての生徒会活動は、学校と在校生の狭間にあって、なかなか目的の実現には至らず、悩み、自問自答する時間が多かったようです。しかし今ふりかえると、取るに足らないような問題ではあったにせよ、真剣に考え悩んだ時期を通して、何事も主体意識を持って取り組むことの大切さを学ぶことのできた3年間でした。青年期・思春期の反骨精神旺盛な高校時代において、若さの特権・象徴でもあったその期間は、今も私の中でキラキラと輝いています。



議長交替的一幕まであった大揺れの昭和43年度定例生徒総会。当時は中庭(現本館あたり)で集会は行われていた。

平成25年度 母校の様子 1年間のあゆみ

4月 April

- 7日(日) 入学式
- 8日(月) 対面式／着任式／始業式
- 10日(水) 校外オリエンテーション(1年、～12日)
- 18日(木) 日大標準学力テスト(2・3年)
- 27日(土) 後援会総会・学級懇談会

5月 May

- 1日(水) 全校集会／生徒総会
- 13日(月) 授業参観(第1回 ～15日)
- 21日(火) 第1学期中間試験(～23日)

6月 June

- 3日(月) 衣替え／全校集会／教育実習(～22日)
- 27日(木) 第1学期期末試験(～7/1)

7月 July

- 9日(火) 校内体育大会
- 13日(土) アカシャ祭(一般公開)
- 20日(土) 終業式
- 22日(月) 三者面談開始(全学年、～8/31)

9月 September

- 1日(月) 2学期始業式
- 9日(月) 第2回研究授業(～13日)
- 19日(木) 生徒会役員選挙
- 28日(土) 校内マラソン大会

10月 October

- 1日(火) 衣替え／全校集会
- 9日(水) 第2学期中間試験(～12日)
- 17日(木) 芸術鑑賞会
- 24日(木) 第2回授業参観(～25日)

11月 November

- 1日(火) 全校集会
- 9日(土) 日本大学統一テスト
- 17日(日) 修学旅行(A班～21日)
- 18日(月) 修学旅行(B班～22日)
- 29日(金) 文化講演会

12月 December

- 4日(水) 第2学期期末試験(～7日)
- 24日(火) 第2学期終業式

1月 January

- 11日(土) 第3学期始業式
- 14日(火) 特別授業開始(～29日)
- 19日(日) 大学入試センター試験
- 21日(火) 推薦入学試験(～22日)

2月 February

- 5日(水) 一般入学試験
- 12日(水) 第3回研究授業
- 15日(土) 予餞会
- 28日(金) 賞状授与式

3月 March

- 1日(土) 第61回卒業証書授与式
- 3日(月) 第3学期期末試験(～6日)
- 20日(木) 第3学期終業式

平成25年度行事



入学式



校内体育大会



アカシャ祭



校内マラソン大会



九州縦断修学旅行(長崎平和記念公園)



予餞会



卒業式



平成25年度 卒業生合格状況 平成25年度卒業生総数481名

日本大学	226名	国公立大学	58名	他私立大学	219名
専門学校	60名	就職	15名	※延べ人数	

◆ 日本大学

法	10	芸術	4	工	105	薬	3
文理	19	国際関係	9	歯	1	短大	2
経済	9	理工	27	松戸歯	1	看護専門	2
商	8	生産工	15	生物資源	11		

◆ 国公立大学

東京外語大学	1	福島大学	11	会津大学	2
東北大学	1	山形大学	4	山梨県立大学	2
千葉大学	1	群馬大学	1	釧路公立大学	1
埼玉大学	1	北見工大学	2	秋田県立大学	3
静岡大学	1	北教大函館校	1	防衛大学校	2
新潟大学	5	横浜市立大学	1	会津大短大部	5
宇都宮大学	3	前橋工科大学	1	山形県米沢女短大	4
茨城大学	1	新潟県立大学	4		

◆ 私立大学

早稲田大学	1	東洋大学	5	立正大学	3
日本獣医生命大学(獣医学科)	1	専修大学	7	拓殖大学	2
麻布大学(獣医学科)	1	工学院大学	2	神奈川大学	6
東京理大学	3	文教大学	3	昭和大学	1
中央大学	2	東海大学	4	武蔵野大学	2
明治大学	1	東北薬大学	1	城西大学	4
青山学院大学	2	東北福祉大学	7	目白大学	1
法政大学	5	国際医療福祉大学	9	獨協医科大学	1
成城大学	1	新潟医療福祉大学	1	東北学院大学	4
明治学院大学	1	玉川大学	7	杏林大学	2
獨協大学	1	日本体育大学	3	関東学院大学	4
星薬大学	1	大東文化大学	4		
東京農大	2	帝京大学	2		
国学院大学	3	国士舘大学	7		

※詳細は学校H・Pをご覧ください。

平成25年度 退職された先生

※敬称略



[国語科]
阿部 正栄
あべ まさえい
昭和46年4月1日～
(43年間)
平成25年11月15日からは非常勤講師



[英語科]
藤田 里美
ふじた さとみ
昭和51年4月1日～
(38年間)



[保健体育科]
大木 進
おおき すずむ
昭和52年4月1日～
(37年間)
平成25年5月25日に退職



[理科]
白戸 智恵
しらかと ちえ
平成25年4月1日～
(1年間)



[国語科]
吉澤 千恵
よしざわ ちえ
平成13年4月1日～
(13年間)



[理科]
本田 あすさ
ほんだ
平成19年4月1日～
(7年間)



[数学科]
加谷 伸之
かや のぶゆき
平成20年4月1日～
(6年間)



[芸術科]
深田 茂
ふかだ しげる
平成20年4月1日～
(6年間)

三世代賞

「三世代賞」は、卒業する生徒ご本人・ご父母様・祖父母君様の三世代に亘る母校愛に敬意を表するもので、平成15年度に設けられました。

平成25年度は、宗像隆次郎君(郡山四中)、橋本貴宣君(郡山一中)、柳沼菜さん(郡山五中)、大山颯君(郡山七中)、高田和哉君(守山中)の5名が受賞。受賞者には三世代の名前の入った記念の楯と記念品としてタブレットが贈られました。平成24年度までに14名の受賞があり、今回の5名を合わせると計19名の受賞となっています。



宗像隆次郎君(郡山四中)、橋本貴宣君(郡山一中)、柳沼菜さん(郡山五中)、大山颯君(郡山七中)、高田和哉君(守山中)

木口 庄壽郎 先生

インタビュー 2014.6.16



今年82歳になられる木口先生は現役時代と少しも変わらない早口で、気さくにインタビューに応じてくださいました。生徒数が1クラス70名から80名もいた日本大学東北工業高校時代に受け持った卒業生の中には、立派にご活躍されている方が多いとのこと。

英語部の顧問をされていた先生は、海外との文通を指導される傍ら、よく生徒と山に登ったことを懐かしそうに話して下さいました。時には小松基扶先生や鈴木守先生も同伴したそうです。また「歩こう会」愛好会顧問も兼任され、休日や夏休み等を利用しながらとにかく生徒と一緒に歩いたことなどもお話し下さいました。その経験は定年後も15年間の間、早朝学校まで歩くという健康づくりに活かされているそうです。OBの方々の中には、文通の原稿を英訳してもらったり、先生と一緒に山へ行ったりしたことを思い出した方も多いかもれません。

ところで、木口先生が英語の教員を志望した理由とはというと、やはり定時制の高校での恩師との出会いだそうです。親身になって自分の将来を考えてくれる担任(英語の先生)に影響され、東北学院大学に進学されました。進学後最も苦しかったことは何と言っても空腹との闘いだったと笑う先生。また、下宿先での日系アメリカ人(巨人軍の吉井選手やビジネスマン)との出会いは、日本にいながらにして留学生活のようだったとも語られました。

現在の趣味は、歴史小説や中国の歴史研究、毎朝の散歩に加え俳句を投句すること。「素人だからね…」と照れる先生の作品の中から、「ねこじやし触れて懐かし反抗期」(2007)を拝借しました。筆者には「やんちゃな高校生の姿」が浮かんだからです。每晚几帳面に綴られるノートの文字からは、先生のお人柄が偲ばれました。



米良 邦保 先生

インタビュー 2014.6.23



昭和7年お生まれの米良先生は御年81歳。早生まれのため木口先生とは同級生でいらっしやるとのこと。ご退職後は蓮華寺のご住職としてご活躍されましたが、現在は息子様に代を譲っておられます。しかし、時折檀家の方の法事等で読経なさるそうです。

さて、そんな米良先生が教壇に立つようになった経緯をお伺いしました。初めて聞く内容に、私も真剣に耳を傾けました。先生は地元の県立高校を卒業されたのち、日本大学第二工学部(現工学部)建築学科に入学されました。しかし、自分の将来を考え悩んだ結果、できれば好きな文学の道を目指したいとの思いから、文理学部の国文学科へ転科されました。当時文理学部は神田三崎町の日本大学本部の4階に教室があり、約40人程度の学生が学んでいたそうです。専攻は近世の文学。特に芭蕉の『奥の細道』を研究されました。それが教壇に立つ契機となり、高校勤務後は、直接芭蕉の足跡をたどるため、相当の距離を歩かれたといえます。

赴任してから教員として大変だったことを尋ねると「就職難の中で、生徒の進路先を確保することだね。当時は不景気だったから。」「授業が終わってから連日のように職場訪問をするので、二本松までの帰宅時間は毎日10時、11時ということも珍しくなかったな。」と当時を振り返られました。先生宅を訪問させていただいた時は、隣に奥様もいらして、「朝早く弁当を作らなければならなかったので大変でしたよ。」と静かに微笑まれます。

米良先生は、現在やや足がご不自由な面もありますが、それ以外はいたって健康でいらっしやいます。四季折々の自然を俳句に読み、毎月一回は、必ず投句するという趣味を続けていらっしやいました。ぜひ来年の60周年記念式典に足を運んでいただければ幸いです。

(構成 / 文: 高橋敏行)

今年の就職状況

米良邦保先生

年度	就職者数	就職率
平成25年度	56	82.0%
平成24年度	56	82.0%
平成23年度	56	82.0%
平成22年度	56	82.0%
平成21年度	56	82.0%
平成20年度	56	82.0%
平成19年度	56	82.0%
平成18年度	56	82.0%
平成17年度	56	82.0%
平成16年度	56	82.0%
平成15年度	56	82.0%
平成14年度	56	82.0%
平成13年度	56	82.0%
平成12年度	56	82.0%
平成11年度	56	82.0%
平成10年度	56	82.0%
平成9年度	56	82.0%
平成8年度	56	82.0%
平成7年度	56	82.0%
平成6年度	56	82.0%
平成5年度	56	82.0%
平成4年度	56	82.0%
平成3年度	56	82.0%
平成2年度	56	82.0%
平成1年度	56	82.0%
計	596	83.0%

桜葉4号より/昭和35年12月20日発行

退職教職員の会総会

5月31日(土)に本校のアカシヤ館にて定例総会が開催されました。今回話題に上ったのが何と言っても夏の甲子園。11年ぶりの甲子園応援を楽しみにしているということで、熱い応援をいただきました。笑顔で写真撮影に応じていただいた先生方に心より感謝申し上げます。また恒例の懇親会が今年も11月に開催されるそうです。



IIコースクラス会だより

IIコース3期生(41期卒)は毎年同級会を12月第1土曜日に開催しています。昨年は卒業20年の節目ということで、担任の渡邊弘幸先生をはじめ、当時主任の小山田先生、阿部雅寿先生、兵藤先生にも加わっていただきました。お陰様で今回も盛会に終わりました。この会が我々の日々の励み、活力となっています!



バドミントン部OB会(40周年)・OG会(20周年)記念祝賀会開催

平成25年8月17日(土)15:00から郡山ビューホテル・アネックスにおいて、創立OB会40周年・OG会20周年記念祝賀会が行われた。OB・OG15名、高校生4名、教員3名、招待客1名の参加者を集め、盛大に行われた。記念のつどいは終始和やかな雰囲気の中進行された。

会の終わりに、OBからバドミントン部の更なる発展を祈念して日大カラーである桜色の「部旗」が贈られた。部旗の中央には、校章と「精神一到」の力強い文字が描かれている。大会ごとに後輩たちを見守ってくれるに違いない。



クラス会だより

工業化学科1組 昭和34年卒 6期生 **渡辺 忠昭**

70歳から2年に一度のクラス会開催

東日本大震災から約三年半が経とうとしています。先月はブラジルでのサッカーワールドカップ開催で世界中が熱くなりましたね。去年のプロ野球では、星野監督が率いる「東北楽天」が日本一となりました。テレビの画面から伝わる選手の緊迫した姿と観客の必死の応援に胸を打たれました。本当にすばらかったです。日本一おめでとう。きっと東日本大震災の復興に向けて、東北の方々に勇気づけるのに役立ったのではと思います。みなさんはいかがでしたか。

さて、私の不手際で「クラスだより」は1年遅れになってしまいました。誠に申し訳ございません。私たちのクラス会は幹事の都合で、5年に一度、3年に一度、そして7年に一度と以前は変則的に開催されていました。特に思い出深いものがいくつかあります。磐梯熱海温泉を開催地とした時は、帰りに野口記念館を見学してから、喜多方ラーメンを食べに行ったり、岳温泉の時は二本松の菊人形を見学したりもしました。

ちょうど今から4年前、70歳の時に幹事も新しく変わった

のをきっかけにクラス会を開きましたが、その時の会で、2年に一度のクラス会を開こうという話ができました。私もあまり先が無いと思い同意しました。2年後の開催時には、幹事は他界した人以外の全員にはがきで近況を調べました。そして昨年の平成24年11月11日にクラス会を開きました。体調不良による欠席者も一部でしたが、奥様同伴で出席してくれた人もいて大変楽しかったです。また、卒業後初めて会う方もいて、話が大きいに盛り上がりました。翌日の解散となり、そのまま帰宅する人もいましたが、中には「みんなで日高に行ってみないか?」と誘ってくれる友人もいたので、思い切って行くことにしました。

53年ぶりに訪れたわが母校の変貌ぶりに私は驚きました。歩いてキャンパス内を見学しましたが、最後まで昔の校舎の面影は思い出せず、始終夢を見ているような気持でした。あまりにも立派な学校になったことを私は誇りに思っています。

私はパソコンもできなければ携帯電話も持っていません。頼りになるのは幹事さんからの手紙や電話による連絡だけです。お互いに体に気を付けて、元気に暮らし、1回でも多くクラス会を開けるようにガンバリましょう!!



工業化学科1組クラス会 平成24年11月11日 於:猫啼温泉 井筒屋

支部だより



須賀川支部総会 5月30日(金) ホテルサンルート須賀川



県南支部総会 7月12日(土) ホテルサンルート白河



南達支部納涼会 7月12日(土) 割烹かわはら

お近くの支部へ連絡をご希望の方は、最終ページのはがきまたは、HPの問合せフォームより事務局までご連絡ください。追って最寄りの支部をご紹介します。

平成26年役員・支部名簿・連絡先・会則変更点については、下記ホームページをご覧ください。

<http://www.nichidai-tohoku-dousoukai.com>

●同窓会会報についての質問・ご意見・ご要望等があれば、下記へご記入の上、ご投函ください。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

※本用紙に記入された個人情報(会報・案内等)を送付する際に使用します。今後継続して、事務局からの案内の送付を希望されない方は、下記の☑印を付して返送もしくはホームページよりご連絡ください。

会報・案内の送付を希望しない。

日本大学東北高等学校同窓会事務局
<http://www.nichidai-tohoku-dousoukai.com>



事務局よりお知らせ

《全国大会出場選手への激励》

7月19日(土)終業式に先立ち、全国高校総合体育大会へ出場する選手の壮行会が行われました。出場する部は次の通り。陸上競技、体操、柔道、剣道、硬式テニス、水泳、自転車競技の各部7団体。また本校野球部は7月26日開成山球場で行われた決勝戦で惜しくも聖光学院に敗れ、甲子園出場は叶いませんでした。県内外の同窓生の方々の声援心より感謝いたします。

同窓生の皆様の各部後輩たちへの熱い応援をこれからもよろしく願います。



7月19日(土)壮行会



代表謝辞 陸上部3年 金澤光輝君

《同窓会創立60周年記念式典開催決定 平成27年秋》

6月28日(土)に開催された平成25年度定例役員会で右の通り、来年の秋10月9日(金)、郡山ビューホテルアネックスにて「同窓会創立60周年記念総会および記念式典」が開催されることが正式に決定されました。なお詳細については今年10月に立ち上げ予定の準備委員会での決定をもとに、本同窓会ホームページと桜采13号(次号27年8月発行予定)に掲載します。

日時:平成27年10月9日

午後6時より

場所:郡山ビューホテルアネックス

《同窓会のHP(ホームページ)について》

同窓会のHPでは、「住所変更」や「お問い合わせ」が可能です。

さらに会報誌「桜采 OUDA」1号～11号のバックナンバーもご覧いただけます。

編集後記

開成山球場の空にこだました声援は、惜しくも甲子園には届きませんでした。選手・応援ともに最後まであきらめない姿に日大東北の底力を感じました。この夏の思い出として深く心に残るはず。同窓生のみなさんの高校在学中の一瞬一瞬が母校の歴史と伝統を築いてきたように、後輩たちの努力が新たな母校の歴史を築いてくれるものと信じています。

さて、桜采12号の発行は多くの方々のご協力によって

支えられております。この場をお借りしてお礼申し上げます。特に木口先生、米良先生、また原稿依頼を快く引き受けてくださった歴代生徒会長のお二人、さらにクラス会だよりに原稿をお寄せ下さった皆様、国分スタジオ様、共栄印刷と廣済堂のスタッフの皆さま、本当にありがとうございました。いよいよ来年は60周年です。一つの節目を迎え、更なる母校発展のために、今後とも皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。【事務局】

郵便はがき

料金を受取人払



9 6 3 1 1 9 0

郡山市田村町徳定字中河原 1

日本大学東北高等学校

同窓会事務局 行

差出有効期限
平成28年8月5日迄
です。切手をはらず
にお出ください。



現住所	〒		都道府県	
TEL	携帯			
氏名	生年月日	男・女		
卒業年	※いずれかに○をつけてください。 建設・機械・電気・工業化学 普通・土木・建築			

【個人情報の取り扱いについて】

1 ご提供いただいております個人情報は以下の目的で使用いたします。同窓会が本来の目的とした活動をする場合、また必要と思われる作業を進行する際など合法的な目的のために活用する場合。(同窓会会報、総会通知、クラス会通知、支部会通知、周年募金・寄付活動・会費徴収の発送宛名及び各種リスト等) 同窓会会員名簿の作成。

上記1の使用に当っては、氏名、フリガナ、郵便番号、現住所、電話番号、勤務先名、勤務先電話番号を利用させていただきます。

2 個人データの第三者提供の制限

ご提供いただいております個人情報の内容は、本人の承諾なしに学校、同窓会関係者以外の第三者に開示、提供することはありません。ただし、以下のような場合は、例外として情報を開示できるものといたします。

法令の規定による場合

ご本人及び公衆の生命、健康、財産等の重大な利益を保護するために必要な場合

3 個人情報管理について

ご提供いただいております個人情報はデータ処理等の業務委託をお願いしております業者において機密保持に万全を尽くすことの確約を得ております。

4 個人情報の開示・訂正・削除について

個人情報は原則として本人に限り、開示・訂正・削除・利用の停止を求めることができます。

個人情報の取扱に関する件で何か申し出がある場合は、同窓会(日本大学東北高等学校同窓会(アカシア会)へ左記のハガキ、もしくは下記ホームページよりご連絡ください。

ハガキでの返信もしくはホームページへの返信のなき場合には、承諾していただけたものとさせていただきます。ご了承いただけますようお願いいたします。

お問い合わせ

日本大学東北高等学校同窓会事務局

郡山市田村町徳定字中河原 1

<http://www.nichidai-tohoku-dousoukai.com>

